

会議録

会議の名称	平成30年度 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成30年7月23日（月） 午後7時から午後8時40分
開催場所	保谷庁舎 別棟A・B会議室
出席者	委員：赤澤委員長、廣瀬副委員長、有賀委員、島田委員、田中委員、 田邊委員、西田委員、山本委員 （欠席：中平委員、中村委員） 事務局：小関生活文化スポーツ部長、田中文化振興課長、 栗林文化振興係長、高松文化振興係主事、圓田文化振興係主事
議題	1 開会 2 平成30年度第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について 3 第2期文化芸術振興計画骨子案について 4 第2期文化芸術振興計画素案（案）について 5 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 平成30年度第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 第2期文化芸術振興計画骨子案 資料3 第2期文化芸術振興計画素案（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 2 平成30年度第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について ・事務局より、議事録の確認を行った。 ○事務局 ・事前に委員から修正の指摘をいただいたが、その点は反映している。 ○副委員長 ・他に意見がないようなら、これで決定したい。 3 第2期文化芸術振興計画骨子案について ・事務局より、資料2を用いて骨子案の変更点について説明を行った。	

(要点)

主な修正点

- 健康に関する政策方針を、市の最新の方向性と合致させるかたちで記載を変更した。
- 施策体系の方針4「伝統文化等の継承」を「地域文化の発掘と継承」に変更した。
- それに伴い方針4に位置づけられる施策について、伝統文化よりも地域に根差した文化事業を取り上げるように変更した。
- 方針1「参加のきっかけづくり」に位置づけた施策を5つから4つに統合した。
- 方針5「交流による活動の拡大・活性化」にて共生社会について大きく取り上げた。

○委員

- ・資料2をもとに資料3になるということか。

○事務局

- ・資料2は、本委員会や庁内での検討委員会で骨子に関する議論を踏まえて修正したものである。資料3は資料2に基づくが、修正箇所を確認いただいた上で資料2について意見交換したい。

○委員

- ・了解した。

○委員

- ・「目指すべき姿」はどれぐらい使い続けるのか。

○事務局

- ・新しいプランが5年間の計画であるため、少なくとも5年間は継続する。

○委員

- ・多様性というキーワードがあるなかで「一人一人」よりも「一人ひとり」という表現は変更するべきかと思っていたが、変更する必要はないということか。

○事務局

- ・「一人一人」に固執するわけではないが、現行計画の策定時の考え方を確認した上で、対応を検討したい。
- ・総合計画の表現と整合性をとり、「子供」も「子ども」と表現する可能性もある。

○委員

- ・文部科学省では「子供」と表記するように通達があった。市の考え方で統一すればよいと思うので、検討いただきたい。

4 第2期文化芸術振興計画素案(案)について

- ・事務局より、資料3を用いて計画の詳細について説明を行った。

《第1章について》

○事務局

- ・平成23年から掲げていた健康都市宣言という表現から、健康応援都市の実現へのスローガンを変更したため、全体的に言葉づかいを変更する。

○委員

- ・「健康」という言葉が入ると、文化振興のそもそもの意図で分かりにくくなってしまう。分かりやすい表現を心がけた方が良いと思う。

○事務局

- ・目指すべき姿は変更するものではない。文化振興計画も他計画と整合を取る必要があ

ることから、健康応援都市の実現や地域共生社会への貢献という視点は加味したい。文化を健康や地域共生社会などと結びつけていきたいと考えている。

○委員

- ・文化を通じて心が健康になるという趣旨は含めてもよいと思うのだが、より分かりやすく表現する必要はありそうだ。

○委員

- ・文化はサブカルチャーから発展すると考えている。サブカルチャーは現状を批判したり、方向転換することで、ストレートではないものも含めて、新しい文化を創造していくことになると思う。健康というものに集約してもよいのか違和感がある。

○委員

- ・4つの効果について解説が書かれているが、文章が分かりづらい部分がある。「心の栄養源」という言葉が計画にふさわしいのか。先ほどの委員の意見も踏まえて、論理的に文章を練れるとよい。

○事務局

- ・文章については検討して、修正内容をご提示させていただきたい。

○委員

- ・「心の栄養源」は普通には使用する言葉だが、理屈が通った方がよい。

○委員

- ・たとえば「感動や喜びをもたらす～日々の生活を豊かにし、」の部分を削除した方がよいのではないか。

《第2章について》

○委員

- ・東京2020大会と西東京市の施策は何か関連があるのか。

○事務局

- ・オリンピック・パラリンピックは記述にもあるように、文化の祭典でもある。市民文化祭のなかで行われる「文化体験フェス」を平成28年度から文化プログラムと位置付けて実施している。今後も増やしていきたいと考えている。

○委員

- ・資料3のP9の文化施設に関する記述はそのまま載るのか。場所に関する要望が多いなかで、文化振興において場所をなくすということを書くだけでよいのか。先の文化施設の計画があればよいが、マイナス面だけを文化振興計画で掲載するのはどうか。

○委員

- ・この部分については、設置することについて希望を持てるような記述を分厚く書いた方がよいのではないか。

○事務局

- ・現在、市の文化施設のあり方を検討しているため、その検討を踏まえて趣旨を盛り込みたいと思う。

○委員

- ・現状と課題についてはもう少し記述を増やしていただきたい。

○委員

- ・資料3のP10では、保谷こもれびホールは様々な事業を実施しているため、現状の取組について記述を分厚くしてもらいたい。

《第3章について》

○委員

- ・方針1の子供に関する記述で「親」として限定しないほうがよい。

○委員

- ・たしかに「保護者」など、広く捉えられる方がよい。

○委員

- ・方針1で、保谷こもれびホールを「起点」と表現している気持ちは分かるように思うのだが、出かけにくい人向けの市民の多様な場として、保谷こもれびホールに限定するようなイメージを持たれない方がよい。

○委員

- ・方針4で、地域資源という言葉が用いられているが、地域資源は遺跡などの古いものだけではなく、活動している人々も地域資源だと思う。活動団体なども地域資源になるので、取り上げてもらいたい。

○委員

- ・資料3のP13の4つの効果との星取り表の表現は再考した方がよい。整合は取れているのか、重点的にかかわる効果を二重丸にするなど、分かりやすい表現を検討してもらいたい。
- ・「文化芸術にかかわる市民の輪を広げるイメージ」は、西東京市固有の図だと思うので、もっと特徴として打ち出してもらいたい。

○委員

- ・「いこいな」を活用するなどイメージを追加してはどうか。

○委員

- ・アンケートの数字を引用しているため、うまく表現するといいいのではないかな。全体的に、何となく言葉を並べているような部分があったり、こなれていない部分もあるので、文章の表現を見直してもらいたい。
まず、基本方針2の「まちなかの広場」は公園なのか何なのか、もう少し具体的に書けないのか。基本方針3では「社会的な役割の重要性が高まっている中～重要です。」となっているため、文章のつながりがおかしい。「反対せずに見守る人の輪」や「文化芸術を支える人づくり」も後の「市民の輪を広げるイメージ」につながっていると思うが分かりづらいと思う。基本方針4では「文化財を保存するだけでなく、活用しながら保存・継承していく社会動向に合わせ」ということは、下野谷遺跡を活用しながら保存・継承していくということになるのか。基本方針5の「分野を超えて結びつくことができるという特徴が挙げられ」とあるが、確定的に言いすぎているように感じる。また、「社会貢献」や「住みやすさ」の言葉は文章の流れとして唐突であるため、もう少し補足する説明が必要だと思う。

○委員

- ・「文化芸術にかかわる市民の輪を広げるイメージ」のなかで「伸長」という言葉があるが、もっと平易な言葉を使ってもらいたい。
- ・市民団体だけではなく、市民もいるのではないかな。図の最上位が市民団体とあり、その下に市民が位置づけられているが、同格ではないのか。検討する必要があると思う。

○委員

- ・市民団体の位置について再度検討していただくとよい。

《第4章について》

○事務局

- ・取組例は現時点での案や例示として出しているものであり、行政の内部でも各部署と調整して検討していく。今回の計画策定において、新しい要素としてどのような内容が盛り込まれるのかが重要であると思う。そのため、実現の可否とは別にしても、アイデアを多く出していただきたい。大きな要素であれば、施策として取り上げる可能性もあると思う。

○委員

- ・実現度の高いものが例として示されているとよいと思う。

○委員

- ・文化団体によるアウトリーチなど、すでに実現しているものも多数ある。そういったものが具体例だと市民にもわかりやすいと思う。

○委員

- ・実現しているものと、今後実現したいものを書けるとよいかもしれない。

○事務局

- ・実現しているものはあまり書かなくてもよいと考えている。例として、14ページの基本方針1の「未来の担い手となる子供たち」への取組を具体的に考えていくことが計画のおもしろさだと思うので、意見をいただきたい。

○委員

- ・「具体例」として示す方が、未来の予測を書けることになるのでよりよいと思う。

《第5章について》

○委員

- ・民間との協力については言及されていないが、病院でのロビーコンサートなどを実施している事例もあるため、触れていけるとよいと思う。

○委員

- ・民間の役割については記載してもらいたい。

○委員

- ・「市民は市の事業に協力する」という文言は気になる。市の方向性や考え方に協力するというのであれば理解できるが、いかがか。

○委員

- ・逆に市の項目として、市が市民に協力するという方がよいと思う。

○委員

- ・25ページと体言止めと、そうでない文章が混在しているので整理してもらいたい。素案について今後のスケジュールはどうなるのか。

○事務局

- ・次回の委員会を9月に予定しているため、素案について固めたもので議論していただきたいと考えている。

○副委員長

- ・気が付いた点などご指摘があればメール等で事務局まで連絡いただきたい。

8 その他

- ・事務局より、4名の委員が任期満了となることを説明した。
- ・事務局より、次回の委員会は9月を予定していること、素案について内容を修正し、

記述を加えたもので議論していただくことを説明した。

○委員（退任の挨拶）

- ・文化振興は市民の関心が薄いように感じており、残念に思う。西東京市には文化芸術に関して真摯に取り組んでいるということを周知してもらいたい。個人的には市民会館については難しい問題だと思うが、代替施設の確保について計画のなかで触れられると、活動する市民にとっては心強いだろう。

○委員（退任の挨拶）

- ・計画は5年間かもしれないが、目の前のことばかりだけではなく、20～30年後の西東京市の姿を見据えて文化振興について考えていけたらと思う。

○委員（退任の挨拶）

- ・文化芸術振興会などの団体の一員として今後も傍聴させてもらいたいと思っている。長い視野を持って取り組んでいけたらと思う。また、「対話による観賞」は一つの成果だとは思いますが、これからも新しい取組を進めていく必要がある。

○委員（退任の挨拶）

- ・最近、文化振興は哲学を求めるものだと思うが、情報過多が進んでいってしまい、真理が分からなくなっている。だからこそ文化振興が大事だと思っている。

以上

《閉会》